

若者の再出発を支えるネット おにぎり通信

発行
若者の再出発を支えるネット
2021年3月

『若者の再出発を支えるネット』を応援して下さっている皆様へ

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大で、普段通りの生活ができない状況になってしまいました。なかなか終息の兆しが見えず、皆様も日々の生活に気遣いの多いことでしょう。

例年、3月に『サポーターズパーティー』を開催し、そこで活動報告をしてきましたが、昨年は中止となり、今回のサポーターズパーティーも、残念ながら、開催を見送ることとなりました。子ども・若者のために多くの努力・協力をして下さっている多くの方々が、一つの場に集い、お互いに新鮮な感動を分かち合いたいと思っておりましたので、本当に残念でなりません。

しかし、このようなコロナ禍にあっても、私たち「若者の再出発を支えるネット」は、できることをできる限りしていこうと活動を続けてきました。紙面を借りて、活動の報告をさせていただきます。

定例会・準備会

月末の木曜日もしくは金曜日の夕方、開催

学習会

定例会を利用して、開催

☆「若者の“働く”への一歩をネットワークで支える」2020年12月開催
高橋 薫さん（NPO法人わかもの就労ネットワーク）



学習支援

- 毎月1回、児童養護施設において、小6生を対象とした学習支援
- 制度上、ここあ（調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」）の学習支援を利用することができないお子さんへの学習支援
- 高校認定試験を受ける若者に対する、学習支援 等



中学校卒業生にリーフレット配布

- 毎年、調布市内の公立中学校に配布
- 相談先の記載 等



基金

〈財源〉

- サポーターズパーティーのチケット売り上げ
- さくら祭りでのお菓子の売り上げ
- 寄付

〈活用〉

- 上限10万円、利息なし、面倒な手続きは不要
- 例) 高卒認定試験のテストを受けるために勉強をしたいのだが、アルバイトを休むと生活できなくなってしまう。
- 例) 高校の転学が叶ったが、制服や体操服を購入するお金が足りない。
- 例) 家庭の事情で一人暮らしを始めたが、最初のお給料までの生活費の支援。

〈目的〉

一般的な基金や補助金は、手続きが煩雑な上、入金までに時間がかかります。実際に困っている人には間に合わない場合も多いため迅速に支援する。



宅配プロジェクト

コロナ禍で生活が困難になった家庭への食糧支援の協力
(寄付を募り、郵送費を受け持つ)



『宅食プロジェクトに寄せて』

新型コロナウイルスの感染拡大によって、3月以降学校が休校となり、給食というライフラインが閉ざされてしまう家庭があるのではないかと不安を抱き、私たちは市長に面会を求めました。調布市子ども生活部の職員も同席下さり、その後、前向きな対応をしてくださいました。そのような時に、こどもフードバントリー調布の活動を知り、協力出来ることはないだろうかという話しが持ち上がり、基金から郵送費を出そうということになりました。

この活動を一人でも多くの方に知ってもらいたい！という思いで、チラシを作成し、寄付を求める旨を記入し、配布しました。目標額50万円と考えていたところ、なんと最終的には130万円を超える寄付をいただきました。中には、特別定額給付金を送って下さった方もいました。皆様ご自身も、新型コロナウイルス感染拡大で、生活形式が変わり、多くのストレスを抱えている中でありながら、より大変な思いをしている方のことを思い行動して下さった、本当に嬉しいことです。受け取った方からも、「こんなにたくさんの食料をいただいているのですか?」「ボンカレーって懐かしいねって、お父さんとお母さんが言ってたよ」など、私たちが思わず微笑んでしまう感想をたくさんいただきました。単なる食糧支援だけではない、つながりの大切さを実感しました。



ボランティア養成講座

自前でボランティア養成講座を企画し、学びの場を開催（全7回 2018年～2019年）

- ① 「子どもの貧困」とひとり親の現状 安心安全な支援の在り方
講師：赤石千衣子さん（しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長）
- ② 「貧困の世代間再生産」と学習支援の役割・学習支援で大切にしたいこと・学校との協力について
講師：西牧たかね（調布市子ども若者総合支援事業学習支援コーディネーター）
- ③ 「子どもたちの生き立ち・家庭環境・家族の支援」
講師：石井義久（児童養護施設第二調布学園 園長）
富永りか（スクールソーシャルワーカー）
- ④ 「子どもたちの特性（発達障がいなど）の理解・特性に応じた指導法」
講師：山中裕子（カウンセリング・ステーション・ユー 代表）
進藤美左（自閉症スペクトラム支援士・調布心身障害児・者親の会 会長）
- ⑤⑥ 学習支援実践にあたって 「子どもたちはどこでつまづくのか・学習支援実践例」 2回
数学/英語 実践例の発表と意見交換
- ⑦ 「子どもの貧困」と私たちにできること 講師：湯澤直美（立教大学コミュニティ福祉学部 教授）



『寄付のお願い』

今後も地道な活動を継続するしていくために財源が必要です。サポーターズパーティーを開催できないことから、ご寄付をお願いすることといたしました。一口1,000円とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行 〈記号〉：10020 〈番号〉：67584981
〈名義〉：若者の再出発を支えるネット



<若者の再出発を支えるネット> 今日までの歩み



どこに生まれても、自分の進みたい道に

「一度つまずいた若者が、やり直せる社会をつくる、それを調布から始めたい」その思いを形にするため、2012年「若者の再出発を支えるネット」が発足しました。

きっかけは、調布中NGOという高校生の活動でした。「どこに生まれても、自分の進みたい道に進めるように」後輩の中学生を応援する目的を、高校生はそう説明しています。

「貧困の連鎖」を断つ

今、「子どもの貧困」という言葉を多く耳にするようになりましたが、2008年がその再発見の年と言われています。6人に1人の子どもたちが相対的貧困ライン以下の生活をしていることに、ようやく社会の目が向けられたということです。と同時に、「子どもの貧困」は、その不利が世代を超えて再生産されることで将来に渡って子どもたちを苦しめるということも、大きく取りあげられ始めました。その貧困の世代間再生産は、高校入試という分岐点に大きく関わっています。<高校入試の失敗または高校中退⇒中卒で社会にでる⇒恵まれない職⇒低所得>となる恐れが高いということです。調布中NGOは、『貧困の連鎖』を断つという目標を掲げ、中学生の学習支援を始めたのです。

その高校生たちを応援しようと集まったおとなたちは、新たな問題意識を持つことになりました。高校に入学後の高校中退を防ぐ、あるいは中退後に学び直したいという若者を支える必要もある。それを実行するため、「支えるネット」の活動は始まりました。

思いを語り合うサポーターズパーティー

サポーターズパーティーを開く目的は、若者の再出発を支える資金を集めるためだけではありません。学習支援に関わる若者や、再出発した若者に直接励ましの声をかけたい、何より、同じ思いを抱く人々との出会いの場をつくりたい。それが、これまで手づくりのパーティーを開いてきた私たちの願いです。

2015年秋には、調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」がスタートし、市をあげて、子どもたち若者たちが自分の可能性を充分伸ばせるように支援する取り組みが始まりました。私たち「支えるネット」も、この事業と連携し、事業の隙間を埋める活動をしています。

また、2018年は「学習支援ボランティア講座」を開催することもできました。その講座で共に学び、それをきっかけに支えるネットのメンバーになった人もいます。

『夢』は叶うという希望をもって

2017年子ども・若者を支える新たな枠組みができました。11月1日に正式に発足した、調布市子ども・若者支援地域協議会です。これまでも必要に応じて協力してきた団体や公的機関などが、法律に基づいて公式に連携できることになったのです。「支えるネット」もその輪に加わることが決まりました。

「子どもや若者を見ん中にして、支えるおとなが手をつなぎ」地道に築いてきた信頼関係の上に、その組織が立ち上がったということが、何より調布の素晴らしさではないでしょうか。

「一度つまずいた若者がやり直せる社会をつくる、それを調布から始めたい」多くの人から見えるように旗は高く掲げよう、と、敢えて高く掲げた理想が、もう『夢』でなくなりつつあります。

パーティーは中止しても、想いをつなぎ

「ほんとは、こんな街にしたいんだ」それを一緒に語り合うため、私たちは2013年以来 7回に渡り、サポーターズパーティーを開いてきました。しかし昨年新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年なら3月に開催してきましたサポーターズパーティーの開催を断念することになりました。

そのような事態になっても「子どもや若者の幸せと未来の可能性のために、手を結び、力を合わせよう」という私たちの想いは変わりませんでした。むしろこんな時だからこそ、どんなに小さなことでもいいから、できることを探し、一歩でもいいから進めたい。そのために、私たちが創ったささやかな「出会いの場」を生かせたらと考え、その方途を模索しました。

そんな折、「こどもフードパントリー調布」(休校中給食がなくなって困っている家庭に食料を手渡すという取り組み)の継続が難しくなったという情報が耳に入りました。郵送すればいいのだが、送料が無いという事情を知った私たちは、「こんな時こそ、私たちの基金を使おう」と資金の提供を申し出ました。そして実現したのが「宅食プロジェクト」です。

明日に向かって、確かに歩む

「宅食プロジェクト」の特徴は、郵送で食料を届けるという方法だけではありません。これまで培ってきたネットワークの強みを生かし、支援機関が直接、食料が必要かどうかを確認することで、自ら名乗り出られない親子も取りこぼすことなく、届け先を決めることができたことです。

さらに、この活動への協力を呼びかけ、寄付を集め、「子どもたちの力になりたい」という想いを、必要な支援へとつなぐことができました。

その寄付は総額1,374,106円にのぼり、私たちの基金を合わせた資金によって、4月から6月の3ヶ月間に、通算5回、のべ467世帯に食料を届けました。(詳しくは、支えるネットのホームページをご覧ください。)

今年もまだ、サポーターズパーティーを開くことはできません。けれども、私たちはこれまで通り、私たちの道を、着実に一歩ずつ歩んでいきます。その歩みを見守り、支えていただけたら幸いです。

会計報告

皆さまからのご支援を
右記のとおり利用させて
いただきました。

期間
2020年4月～
2020年12月28日

収入

イベント(実施できず チケット購入者の寄付あり)	8,500
寄付	190,910
会費 @1,200 x 18名	21,600
貸付返済金	30,000
利子	8
合計	251,018

支出

基金事業費	貸付金	170,000	192,544
	学習ボランティア事務費	200	
	マスク寄付	15,734	
活動費	宅食プロジェクトへの寄付	6,610	45,515
	子ども食堂への寄付	30,000	
	会議費	4,400	
	事務費・コピー代	11,115	
合計		238,059	

宅食プロジェクト収支

	収入	支出	(基金からの補填)
4/15～8/18	1,390,106	1,396,716	6,610

基金

	収入	支出	(基金からの補填)
前年度からの繰越金			1,358,828
基金事業費		192,544	
基金残高			1,166,284

